

東洋鋼鋅グループ

社会・環境報告書 2011

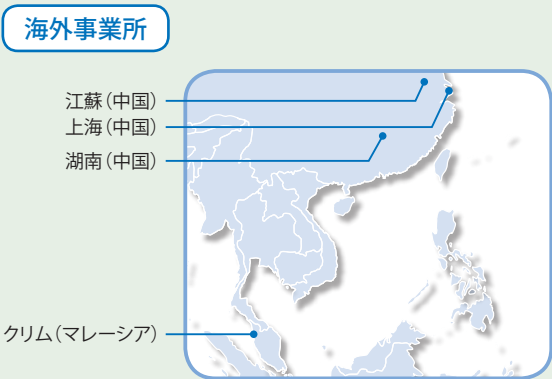
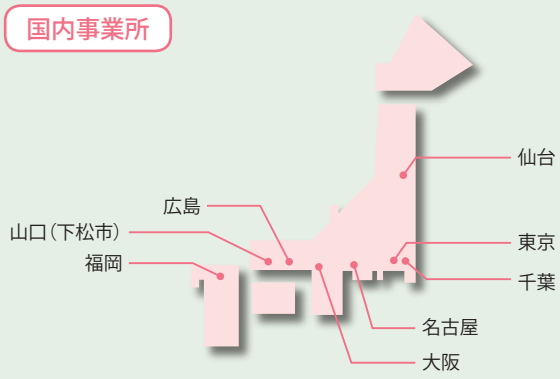


会社概要

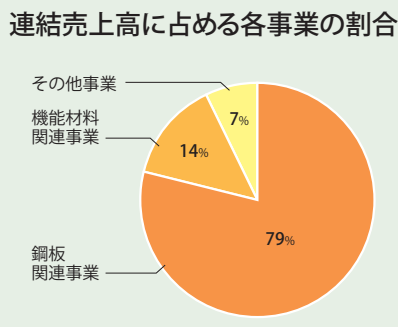
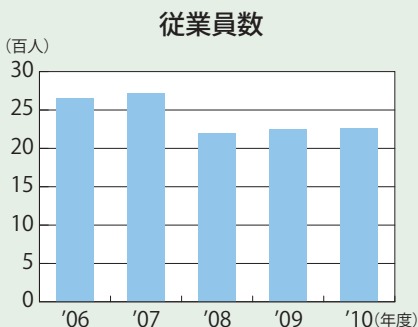
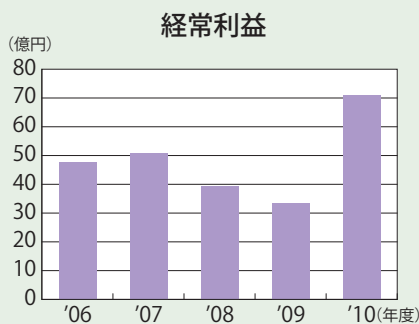
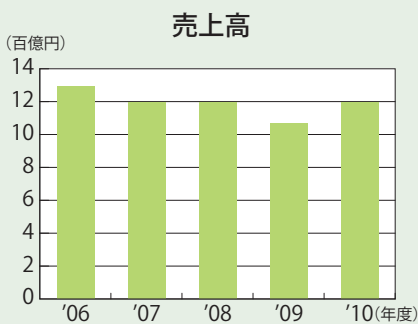
東洋鋼鋅は、1934年の創業以来、快適で潤いある暮らしに欠くことのできない素材である「鉄」の豊かな可能性に着目し、表面処理鋼板界のパイオニアとして発展してきました。当社は、最新鋭の設備と高度な技術力を背景に、缶用材料をはじめ、高品質な各種薄鋼板、表面処理鋼板、高級化粧鋼板など優れた商品を世界に先駆けて開発、製品化し、多様なニーズにお応えしています。

また、東洋鋼鋅グループは、磁気ディスク用アルミ基板、光学用機能フィルム、硬質合金、梱包資材用帯鋼、機械器具など、多岐にわたる分野に進出しています。

社名	東洋鋼鋅株式会社
英文社名	Toyo Kohan Co., Ltd.
設立	1934年4月11日
資本金	50億4,000万円
従業員数	2,258名(2011年3月末連結) 1,168名(同 単独)
売上高	1,192億円(2010年度連結) 1,066億円(同 単独)
本社	東京都千代田区四番町2-12
工場	山口県下松市東豊井1302
事業内容	ぶりき、薄板および各種表面処理鋼板 ならびに各種機能材料等の製造・販売



■売上高、経常利益、従業員数の推移(連結)



東洋鋼鋅グループ

東洋鋼鋅(株)	国内	連結	
鋼鋅商事(株)			
鋼鋅工業(株)			
KYテクノロジー(株)			
TOYO-MEMORY TECHNOLOGY SDN. BHD.	海外		
東洋パックス(株)	国内		非連結
共同海運(株)			
下松運輸(株)			
東洋パートナー(株)			
上海東洋鋼鋅商貿有限公司	海外		
湖南東洋利徳材料科技有限公司			
江蘇東洋鋼鋅新材料科技有限公司			



CONTENTS

■編集方針

東洋鋼鋸は2002年に「環境報告書」初版を発行、2006年からは国内グループ企業まで報告対象範囲を拡大して、東洋鋼鋸グループとして発行し、事業活動における環境負荷および環境配慮への取り組み状況など、環境情報を報告してきました。

2011年は、持続可能な社会の構築に対する東洋鋼鋸グループの事業活動を通じた取り組みを理解していただくため、社会的側面の報告範囲を更に拡大し、社会性を強めた「社会・環境報告書」に一部内容変更し、来年発行予定のCSR報告書とリンクさせたいと考えます。

■報告書の要件

対象組織：東洋鋼鋸グループ
(ISO14001グループ統合認証取得8社*)
*連結対象範囲とは一部異なります

対象期間：2010年4月1日～2011年3月31日
(一部2011年6月までの情報も含まれます)

発行日：2011年8月(次回発行予定は2012年8月)

対象分野：社会的側面および環境的側面を報告の対象としています。

作成部署：東洋鋼鋸株式会社 監査部 環境グループ

連絡先：東洋鋼鋸株式会社 総務部
〒102-8447 東京都千代田区四番町2番地12
TEL 03-5211-6211(代)
FAX 03-5211-0181
<http://www.toyokohan.co.jp>

震災の影響と取り組み

このたびの東日本大震災で被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

東洋鋼鋸グループにおきましては、お客さまをはじめ資材供給の皆さま方の一部が被災され、製品需給にも多少の影響が生じましたが、幸いにも生産設備は大部分が西日本にあり、このたびの震災による直接的な影響はございませんでした。

今後、市場の動向と資材調達網を精査し、鋭意バックアップ態勢を整えとともに、事業の継続を損ねるリスクを事前に統御する仕組みもさらに強化し、皆さまの信頼にお応えしていく所存です。

震災後、国家的・社会的に電力量の削減が求められており、東洋鋼鋸グループもこれまで以上に省エネルギー化、生産性向上を推進し、経営体質の強化に結びつけてまいります。

なお、東洋鋼鋸グループは、被災された地域の皆さまの復旧および復興にお役立ていただくため、社会福祉法人中央共同募金会を通じて義捐金をお送りいたしました。

トップメッセージ	2
東洋鋼鋸グループの経営理念とCSR	4
新リスク管理体制について	6
労働安全衛生マネジメントシステムの導入について	8
東洋鋼鋸グループの紹介	10
身近なところに東洋鋼鋸グループ	12
こんなところに東洋鋼鋸グループ	14

社会活動

お客さまとともに	16
株主・投資家の皆さまとともに	19
従業員とともに	20
地域社会の皆さまとともに	23

環境活動

お取引先さまとともに	24
環境リスク低減への取り組み	25
環境負荷低減への取り組み	26
環境マネジメントシステムの状況/目標	28
環境会計	29

表紙について

私たち、一人ひとりとはとても小さなピースでも、二つとして同じピースはありません。そして、皆が集まれば大きな大きな力となり、素晴らしい世界を描くことができます。今年の表紙も、私たちの個々の力をジグソーパズルに見立て、表現しました。昨年より減らし、残りのピースは1つ。来年度のCSR報告書へのステップを示しています。



- この報告書は、「環境省環境報告ガイドライン(2007年度版)」を参考に作成しました。
- この報告書は、色覚に障がいのある方にも読みやすいよう配慮いたしました。

社員一人ひとりが 事業にリンクする組織への変革。 その先に、東洋鋼鈹の新しい未来があります。

このたびの東日本大震災で被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

当社では、被災地が一日も早く復興できますよう、できる限りの支援を行ってまいります。

——— 2010年度は、現中期経営計画「STEP UP 100」の初年度でした。その成果についてお聞かせください。「STEP UP 100」という名称には、創立100周年に向けて躍進しようという決意が込められており、2012年度末に売上高1,280億円、営業利益率7%を達成することを目標にしています。その目標達成のために、販売部門の責任の明確化や、販売部門と間接部門・生産部門の連携強化によって既存事業の収益拡大を図り、さらにはグループ企業との協業強化によって新規事業を開拓するという施策を進めています。前中期経営計画から、組織間の壁を低くしてお互いの仕事を「見える化」することに力を入れてきましたが、現中期経営計画では、さらに、本部制から事業部門制への移行という大胆な組織改革を行っています。これは、グループの事業を7事業に分け、それぞれに事業責任者を置いて事業を推進する体制で、たとえば総務部や財務部といった間接部門を営業部門にリンクする形とすることによって、それぞれの部門の仕事が相互によく見えるようになりました。従来ならつながりのなかった部門の社員同士が話している光景もよく目にしますし、生産部門も収益に対して関心を持つようになってきました。これは大きな前進だと思います。組織が大きく変わり、成果が着実にあがっていることを実感しています。部門同士がリンクし、社員が事業にリンクする。それによって、自分たちの頑張りが事業損益に反映していることが見える。これは、新中期経営計画初年度に良い影響を与えているのではないかと思います。第4四半期は東日本大震災の影響がありましたが、初年度としていいスタートをきれたと考えています。

——— 新たな事業展開としては中国への進出がありますが、東洋鋼鈹の今後の事業展開についてはどうお考えですか。

2009年、上海に販売会社を設立し、2010年にはニッケルめっき鋼板を製造・販売する合併会社および工業缶用ラミ

ネート鋼板の製造会社を設立、今年から現地生産を開始しています。当社が今後成長モードに入っていくためには、これからを担う世代に新しいビジネスの場を提供し、未来を見据えた、これまでにない新しい考え方でビジネスを拡大してもらう必要があります。従来のレールの上でルーティンワークをこなすだけではなく、積極的に新しい仕事を創造していく。そこに、当社が文字通りステップアップしていく上での鍵がありますし、組織改革の狙いもそこにあります。現在、産学協同体制で新規事業の創造に取り組んでいますが、これも新しい発想を活かせる柔軟な組織でなければ進展しません。一人ひとりの力を組織の中で活かすことを基盤として、その力や考え方を相乗させていく。今後当社が成長できるかどうかは、そこにかかっていると思います。

——— 一方、CSR活動面ではリスク管理体制が再構築されました。その考え方についてお話しください。

企業が持続的に発展していく上で、事業を取り巻くさまざまなリスクを分析し、対策を立てることはきわめて重要です。その意味で、リスク管理はCSR活動の中核といえるかもしれません。特に当社は、社会に対して常に有益な価値を提供することを経営理念の第一に掲げていますので、その理念を実現するためにも、安定して事業を継続できる体制を整え、ステークホルダーの皆さまからご信頼いただく必要があります。このことから、2010年度はリスク管理体制整備を進め、2011年4月から、私を委員長とするリスク管理委員会のもと、コンプライアンス、生産・品質など6つの管理項目それぞれに担当役員を置く、一元的な管理体制を構築しました。その準備期間にこのたびの大震災が発生し、あらためて防災体制整備の重要性を痛感しています。いうまでもなく、事業を脅かすリスクには、災害をはじめさまざまな種類があり、たとえば社員が間違った行動をとればコンプライアンス上のリスクになり、間違った作業をすれば事故の原因になります。リスクというのは、ふだんの心掛けと密接に結びつい

たもの、ということです。「間違っことは絶対にしない」この言葉を一人ひとりが心に刻んでおけば、リスクは未然に防げるものです。いざ何かがあった時にどう判断し、行動できるか。そこでその人の人間力が問われます。当社の行動指針にも掲げている「高い倫理観」を一人ひとりが持てば、リスクに強い組織になっていくと考えます。

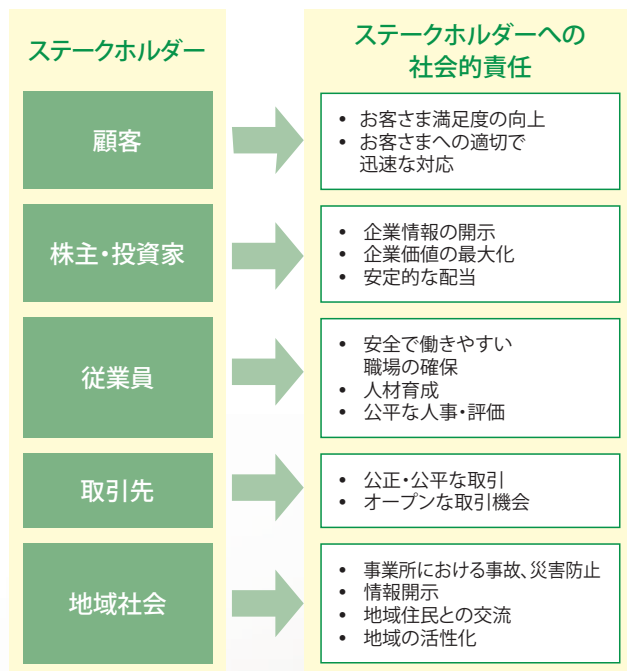
——— 最後に、今後のCSR経営についてお考えになっていることをお聞かせください。

今申し上げたように、当社は、社会に有益な価値を提供することを経営理念の一つとしており、社会的価値の高い企業であり続けることをステークホルダーに対する責任と考えています。その責任を果たすためには、事業を推進する社員一人ひとりが自分の能力を伸ばし、日々やりがいを感じながら安心して仕事ができるよう、社内をしっかりと整備することが大前提です。お客さまや株主・投資家の皆さま、あるいは取引先、地域社会などあらゆるステークホルダーに貢献するためには、社員というステークホルダーが自在に活躍できる場を整備する必要があるということです。社員が、上から言われたことを、ただこなすのではなく主体的に仕事に関わる、その個々の力を結集しなければ会社は成長できませんし、ミッションを果たすことはできません。責任を果たすための土台をまずしっかりと作る。私は、これを当社のCSR活動の中心に据えています。そのために、当社の経営理念、行動指針、ビジョン、そして当社が受け継いできた「DNA」の事例をまとめた小冊子「TOYOKOHAN GATE 100」を作成して全社員に配付し、理念の浸透を図っているところです。ひと味もふた味も違う鉄鋼メーカーへ、皆さまにいつそう信頼され、ご期待にお応えできる企業へとステップアップしつつある当社の今後を見守っていただければと思います。

東洋鋼鋸株式会社
代表取締役社長

田中厚夫

◆ 東洋鋼鋸が考える、ステークホルダーへの社会的責任



東洋鋼鋅グループの経営理念とCSR

東洋鋼鋅グループにとってCSRの取り組みとは、
経営理念・行動指針・ビジョンに基づいて缶用材料を中心としたものづくりを通じて、
社会の発展と平和に貢献するとともに、社員一人ひとりが人間として成長することであると考えます。

経営理念

1. 東洋鋼鋅は永続的に有益な価値を提供し、地球環境や社会の進歩に貢献します。
2. 東洋鋼鋅はすべての社員が豊かな社会生活を営む環境を作ります。
3. 東洋鋼鋅は常に新しい技術の可能性を追求し、成長する企業であり続けます。

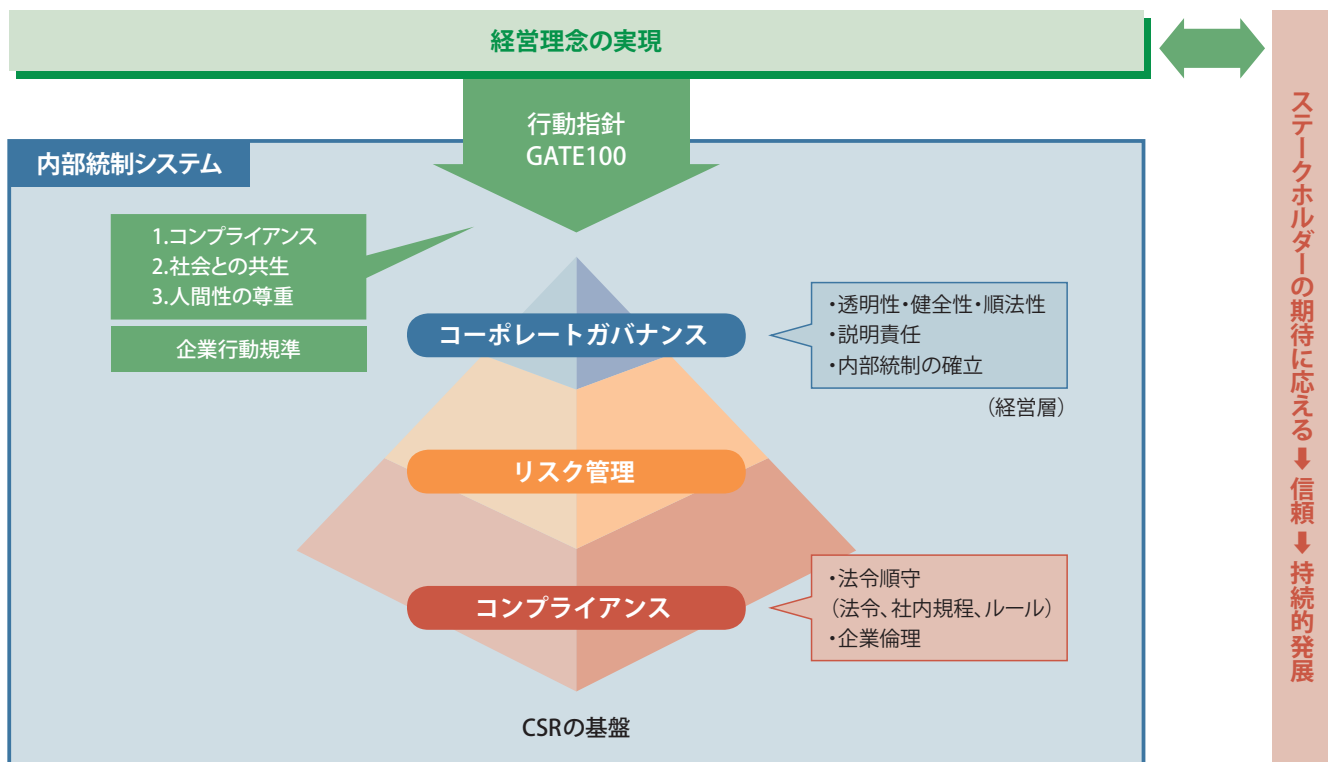
行動指針

- 1) 法令や社会的規範を守り、高い倫理観を持って行動します。
- 2) すべてのステークホルダーに対してコミュニケーションを実践し、社会との共生を図ります。
- 3) 互いの人間性、多様性を尊重し、透明性の高い職場を作ります。
- 4) 常に新しいことを探求する眼と挑戦する勇気を持ち続けます。
- 5) 一人ひとりが「素な心」を心に宿し、正々堂々と社会に新たな価値を作り上げます。

ビジョン

当社はぶりき製造で誕生した会社ですが、その技術を発展させ非鉄、樹脂等を精密加工することにより、世界の鉄鋼業で類を見ないビジネスモデルの会社を目指します。

◆ 東洋鋼鋅グループCSR



内部統制システムの構築に関する基本方針

CSRを推進していくためには、コンプライアンスやリスク管理、コーポレートガバナンスに関する体制（内部統制システム）が整備されている必要があります。
当社では、内部統制システムの構築に関して、以下のような基本方針を定めています。

1. コンプライアンス体制

- ・ 企業行動規準の制定
- ・ コンプライアンス委員会を中心とした活動
- ・ コンプライアンス相談窓口の設置、運営
- ・ コンプライアンス専門部署の設置
- ・ 反社会的勢力による被害の防止

2. リスク管理体制

- ・ リスク管理委員会およびリスクマネジメント事務局の設置
- ・ 認識しているリスクその他予見されるリスクの識別、分析、評価の実施

3. コーポレートガバナンス

- ・ 執行役員制度の採用
- ・ 取締役会
- ・ 運営会議
- ・ 事業・部門制の採用
- ・ グループ管理
- ・ 監査役監査の実効性確保

リスク管理各セグメントの方針

■ コンプライアンス

法令を含む社会的規範を順守することにより、ステークホルダーの満足度を高め、当社グループが社会的に有意義な存在であり続けることを目指します。

■ 生産・品質

お客さまに期待されている品質と安定的な生産の実現により、お客さまに十分に満足していただけることを目指します。

■ 販売

購買、販売から物流に至るサプライチェーンに対する監視を強化することで、安定した営業活動を継続し、お客さまの信頼を得ることを目指します。

■ 安全・衛生・防災

従業員の安全と健康を守り、衛生的かつ安心して働ける職場を作ることで、ステークホルダーの信頼を得ることを目指します。

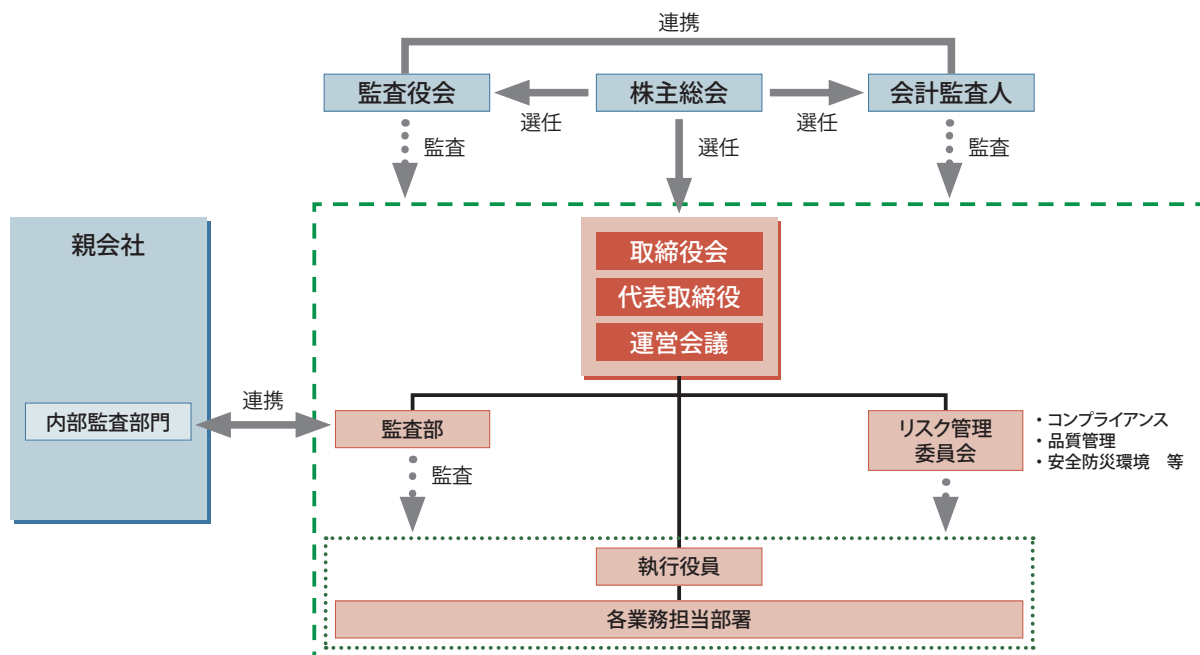
■ 環境

地球環境の保全、地球環境の質的改善が人類共通の最重要課題であることを認識して、持続的に発展する循環型社会の形成に貢献することを目指します。

■ 情報管理

情報技術の急速な進化に対応して、情報セキュリティを強化するとともに、情報共有、情報開示を通じて社会の信用と信頼を得ることを目指します。

◆ 内部統制システムの概要を含むコーポレート・ガバナンス体制（2011年4月1日現在）



東洋鋼鉄グループは、上記の経営理念・行動指針・ビジョン、ガバナンス体制およびリスク管理方針のもと、お客さまのニーズや社会的要請に応え、共に成長することを目指しております。

次ページ以降に、具体的な取り組みについてご紹介いたします。

新リスク管理体制について

2011年4月から新しい全社リスク管理体制がスタートしました。リスク管理は、企業の価値を維持・増大していくために必要かつ重要な活動です。企業の事業目的の達成を阻害するリスクを低減させて持続的に発展させること、即ちリスク管理活動はCSR活動の中核であり、すべての社員がこの活動の狙いを十分理解し、積極的に参画することが重要です。今回の「リスクを未然に防止するための管理体制の整備」と合わせて、社員一人ひとりが「間違ったことは絶対にしない」との認識を常に頭の中に宿らせることにより、リスクに強い東洋鋼鈹グループへの変革を目指します。

新リスク管理体制の概要

▶ リスク管理体制の一元化

当社の重点的に管理を要するリスク(6項目)について、それぞれ役員クラスの担当責任者を置き、「管理委員会」を設置しました。これらを「リスク管理委員会」が統括管理することにより、全社的な視点からリスクを一元管理していきます。

▶ PDCAサイクルを回す

各リスク管理責任者(各リスク管理委員長)の指揮の下、マネジメントシステム(PDCAサイクルを回す)によりリスク管理レベルの向上に努めます。

▶ グループ全体への展開

関係会社、海外会社にも範囲を広げ、東洋鋼鈹グループリスクマネジメントシステムを構築し、リスクに強い東洋鋼鈹グループの構築に取り組んでまいります。

各責任者コメント



コンプライアンス

安全・衛生・防災

常務執行役員
大谷 憲史

正しく理解し正しく行動すること

リスクマネジメントの中核を形成する活動がコンプライアンス活動です。人権や正しい倫理観をベースに社会規範、法令、社内規則、行動規準など事業活動を律する決まりを厳粛に受け止め、「正しい行動を心がけ」「やってはいけないことは絶対にやらない」組織風土を作り上げ、企業倫理の確立に努めます。担当業務の遂行に必要な法律知識、知的財産について学び、正誤に気づき、問題の発見と正しい解決を図る人材を育成します。

OSHMSを導入しマネジメントを強化

全社的に労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)を導入し、全社・安全防災担当責任者が関係会社(含、海外)を含むグループ全体を統括する体制に変更し、強化します。このシステムを運用して、人・事業場や設備・作業方法等に潜む正しくない変化の兆しや災害に至らない微かな現象を見逃さず、不安全な要因や原因を見つけ出し、これを除去することによって、社員の安全と健康を守り、衛生的かつ安心して働ける職場を作ってまいります。



生産・品質

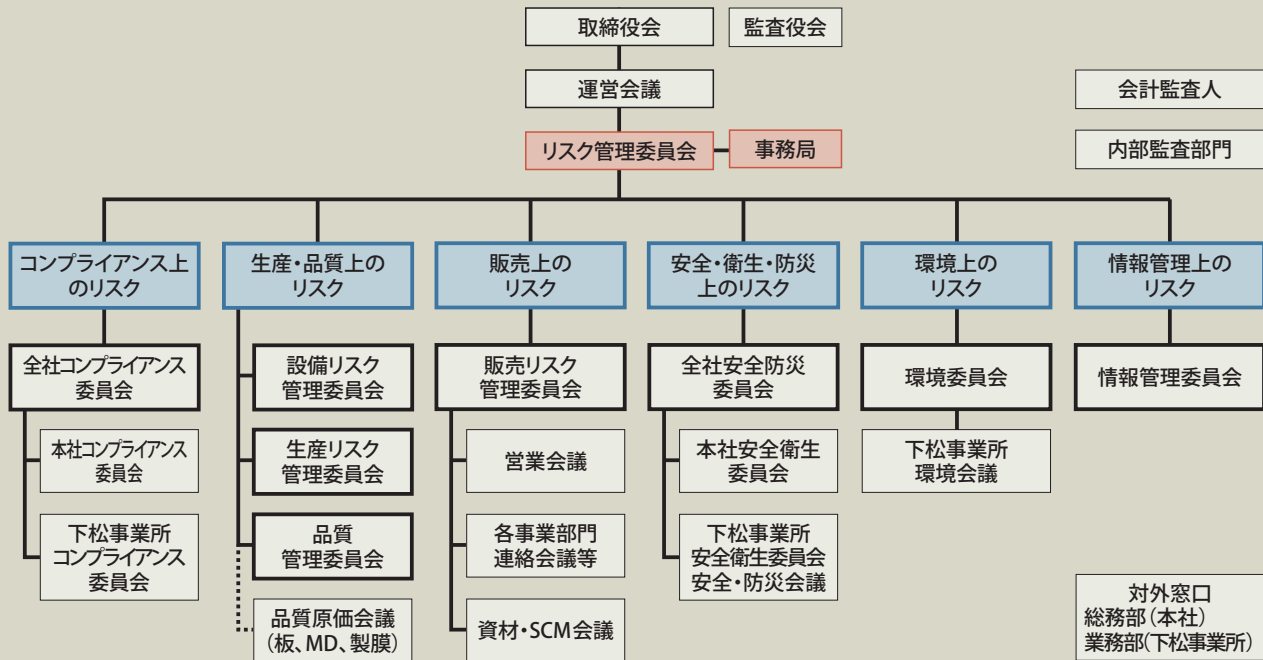
取締役
専務執行役員
富永 勝彦

正体さえ判れば リスクは決して怖くない

グループの品質管理体制の健全性を監視・改善することを目的に、各事業部門の監査、社内外の発生リスクの紹介・対応策の検討・フィードバックなどを行う品質管理委員会、材料入手、協力会社、要員確保、技術の伝承などのリスクに関し、評価・対応する生産リスク管理委員会、主として老朽化した設備のリスクを管理する設備リスク管理委員会の3委員会で構成されます。人間には自分に都合の良い思考をする習性があると言われており、難しい面もありますが、考えられる限りのリスクを予測し管理していきたいと考えております。正体さえ判ればリスクは決して怖くない。「リスク」はきちんと対処すれば「クスリ」になるとも言います。リスク管理も挑戦です。

◆ リスク管理体制図

2011年4月1日現在



販売
取締役
常務執行役員
吉武 潤一郎

健全なマネジメントシステムの実現に向けて

日常の営業活動の中にはさまざまなリスク(需要変動、クレーム、与信、調達性、為替変動等々)が潜んでいます。また、リスクをリスクと認識せずに実行されている業務マニュアル・フローの存在も否定できません。リスクをいかに洗い出し、適切な対応措置を取っていくか、更にそれをいかにミニマイズしていくか、そういった意識的な追求が重要なポイントとなります。販売業務のほか、営業活動に関わる購買、物流、SCM等の各業務にまで対象範囲を拡げ、監視体制を強めることで健全なマネジメントシステムの実現を目指します。



環境
取締役
専務執行役員
藤井 厚雄

「環境への意識・取り組み」をより身近に

企業の宿命は『収益を上げて社会へ貢献し続けること』です。その重要な取り組みの一つに「環境への取り組み」があります。「環境保全」が「社会的平等」や「民主主義」と並んで普遍的な価値観とまで言われる時代でもあります。当社でも経営理念の第一に「地球環境や社会の進歩に貢献」を掲げています。また、環境マネジメントシステムを経営管理の重要な一つとして位置づけ、グループ環境方針を制定するとともに、「地球環境の保全」「地球環境の質的改善」が人類共通の最重要課題であることを強く認識して、環境負荷の低減や継続的な改善に取り組んできました。これからも「環境への意識・取り組み」が社員一人ひとりに身近になるように努めてまいります。



情報管理
執行役員
浪岡 貞之

情報管理には、ルール、基準の整備が不可欠

加速化する情報技術の進展により、情報管理の役割は複雑さを増すと共にその重要性は極めて高いものとなっています。また、情報の共有化、見える化など情報開示の必要性も一段と強まっています。情報は発信され、意思決定に活用されて初めて価値を生じますが、企業活動において情報の重要度は個人の判断に委ねられるのではなく、社内で統一した基準により決定されるべきです。社内での情報伝達、情報共有を遅滞なく適切に行い、事業活動を効率的に推進するためにも、ルール、基準の整備が不可欠であると考えます。

労働安全衛生マネジメントシステムの導入について

導入の背景

「企業活動の原動力は、人である」の考えのもと、設備の安全化、安全教育等を行ってきましたが、現状の問題点①～③を抱えていました。

経営理念の一つ

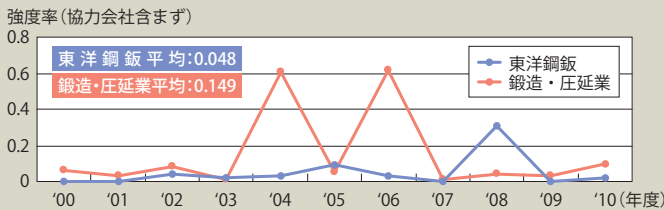
「すべての社員が豊かな社会生活を営む環境をつくります」

経営基本方針の一つ

「従業員が会社生活を通じて健康で能力を発揮できる環境を作り、事業継続の基盤を確保する」

を実現する為に、従来の管理体制や管理方法を見直し、中央労働災害防止協会方式適格基準に準じた安全衛生マネジメントシステムを2011年4月1日から運用開始しました。(但し、外部認証は受けていません)

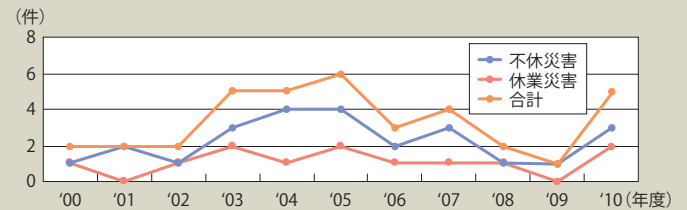
◆ 図-1 強度率



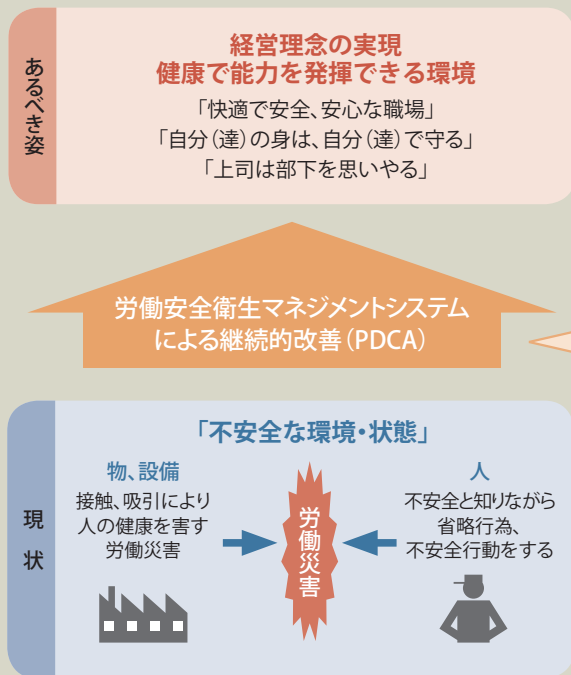
現状の問題点

- ①安全・衛生および防災問題は、経営トップのもとに、全社的に取り組むべき課題の一つです。しかし、現状は、下松事業所、技術研究所、本社と別々に管理運用しており、全社的に取り組む体制に変える必要がありました。
- ②下松事業所は、1999年度以降、設備の安全化、安全教育、KYT活動、ヒヤリハット活動、等に取り組んできました。その結果、安全成績の指標の一つである強度率(強度率：1,000延労働時間当りの労働損失日数)で見ると、重大災害の発生は同業種(鍛造・圧延業)の中で低い水準で推移していません(図-1参照)。しかし、発生件数は、「2005年をピークに減少に転じたものの、2008年以降横ばい状況にある。(図-2参照)」という問題点を抱えており、これを何とか打開し、安全で安心して働ける職場を作る必要がありました。
- ③従業員(同僚、部下)の健康は、従業員が能力を十分発揮し事業を推進する重要な要素であり、従業員にとって生涯設計の重要な要素です。しかし、健康管理に関する社内規程が明確でなく、全社的に管理する体制を整備・構築する必要がありました。

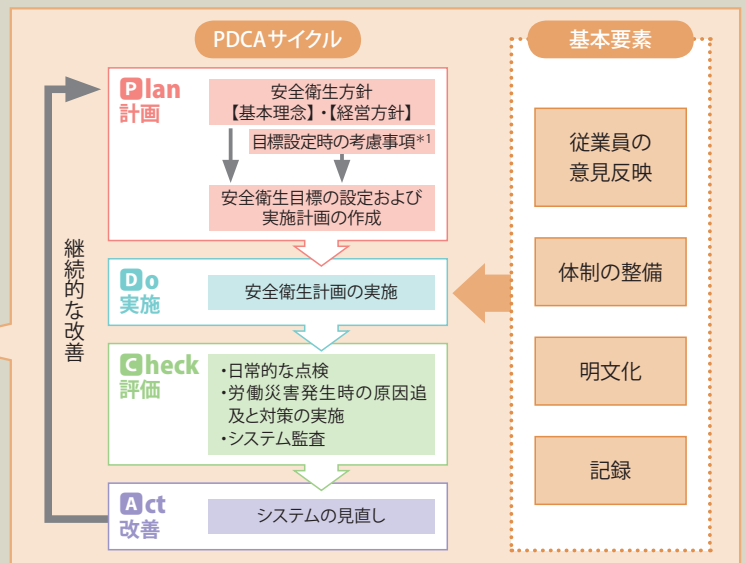
◆ 図-2 不休・休業災害発生件数



安全衛生管理の概念



労働安全衛生マネジメントシステムPDCA概念図



*1 ①危険性又は有害性の評価結果 ②過去の労働災害 ③過去の安全衛生目標の達成状況 ④法的およびその他の要求事項 ⑤危険予知活動、4S活動、ヒヤリハット活動等の安全活動 ⑥安全衛生教育 ⑦システム監査およびシステム見直し結果 ⑧技術上の選択肢 ⑨財務上、経営上、事業上の要求事項

労働安全衛生マネジメントシステムとは

労働安全衛生マネジメントシステムとは、事業者が労働者の協力の下に、「計画－実施－評価－改善(以下「PDCA」という。)」という一連の過程を定めて、継続的な安全衛生管理を行うことにより、労働災害の防止を図るとともに、労働者の健康増進および快適な職場環境の促進を図り、安全衛生水準の向上を目的とした新しい安全衛生管理の仕組みです。

安全衛生水準向上の具体的な取り組みとして、年度単位で安全衛生目標および計画を定め、3ヶ月毎にその進捗を確認しながら、安全衛生改善に取り組んでいます。目標は、①全社目標(本社および事業所で取り組む目標)、②本社と事業所で各々独自に取り組む目標、を設定しています。2011年度目標事例(抜粋)を下表に示します。

	重点実施項目	目標	目標値
全社目標 (本社も事業所も 取り組む目標)	ワークライフバランスの推進	年休取得率の向上	15日/年以上
		「ノー残業デー」の促進	1日/週以上
	健康の保持と増進	健康チャレンジの活性化	参加率10%増加
		生活習慣病の改善	対象者全員
事業所目標 (事業所が取り組む目標)	生産設備の安全化	リスクアセスメント・レベルB以上の危険・有害要因の除去	低減件数:50件以上
	作業および行動の安全化	作業手順および行動の見直し	今年度中に見直す
	幹部安全衛生巡視の充実	法律の順守徹底	2回/年
		重大災害の風化防止巡視	2回/年
	事業所では、上記以外に「交通事故防止」、「安全衛生教育」、「法令順守」、「緊急事態の対応訓練」等も、目標を定め取り組んでいます。		

安全衛生方針と組織図

◆ 安全衛生方針

【基本理念】

企業活動の原動力は人であり、健康で能力を発揮できる環境づくりが事業継続の基盤であり、経営理念の一つである「すべての社員が豊かな社会生活を営む環境を作る」の実現を目指して、安全衛生活動を推進する。

【行動方針】

1.労働災害の防止

リスクアセスメントによる設備の本質安全化やヒヤリ・ハット活動、KYT活動等の安全活動を適切に実施し、事故・労働災害の未然防止および再発防止を図ります。

2.安全衛生水準の継続的向上

従業員の協力のもと、安全衛生管理の継続的な計画・実施・評価・改善など、マネジメントシステムの適切な運用により、安全衛生水準の継続的向上に努めます。

3.法およびその他の要求事項の順守

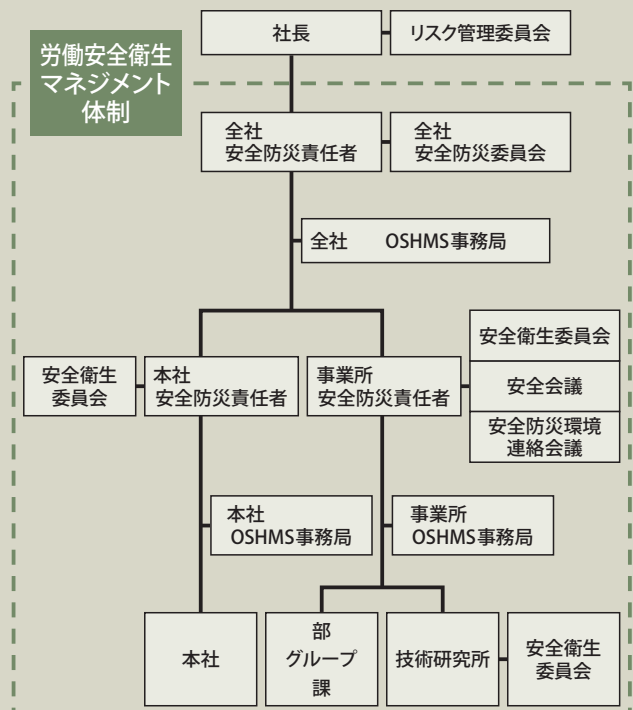
労働安全衛生関係法令および組織が同意するその他の要求事項を順守します。

4.健康の保持・増進の支援

従業員の心と体の健康保持のため、作業方法や作業環境を適切に管理、改善し、健康診断やコミュニケーション等を通じた健康管理、メンタルヘルス対策を推進するとともに、健康増進のための活動を支援します。

安全衛生方針は、労働安全衛生マネジメント最高責任者による安全衛生活動に関する基本的な考え方、取り組み方の表明です。

◆ 労働安全衛生マネジメントシステム組織図(全社体制)



今後の取り組み

①労働安全衛生マネジメントシステムは、安全衛生上のリスクを管理する仕組みです。このシステムが労働災害防止や従業員の健康増進に有効な仕組みとして、形式的ではなく具体

的に根付くよう、従業員の意見を聞きながら改善を図ります。
②東洋鋼板グループに本マネジメントシステムを水平展開し、グループの安全衛生活動の向上を図ります。

東洋鋼鋅グループの紹介

東洋鋼鋅は、1934年に日本で民間初のぶりきメーカーとして誕生し、以来75年を超える歴史で培った圧延、表面処理、ラミネートなどの固有技術をもとに、お客さまにご満足いただける商品、サービスを提供してまいりました。「この鋼板関連事業を柱として、ハイテク製品に不可欠な機能材料、環境にやさしい化成品・機能材料などにも拡大し、安全、便利、快適をお届けしたい」わたしたちはこう考えます。東洋鋼鋅の生産拠点である山口県下松市を中心として、国内では8社で構成されている東洋鋼鋅グループを紹介します。

● 鋼鋅商事株式会社

鋼鋅商事は、東洋鋼鋅グループの中核をなす商社であり、メーカーの営業と役割を分担し、市場・お客さまとメーカーをつなぐだけでなく、お客さまが必要とされる商品・技術をフレキシブルにお届けします。近年では鋼板類の営業にとどまらず、加工品や表面検査装置のように、より高付加価値な製品の販売も手がけております。また、ハイペットやシルバートップエコなどの環境に配慮した製品や、省電力に貢献する「どこでも光窓」、「SetsuDenミラー」の拡販にも注力し、地球に優しい社会の実現に寄与してまいります。



どこでも光窓を使用した室内花壇

● 鋼鋅工業株式会社

鋼鋅工業は、品質を優先したものづくりの姿勢を大切に、常にお客さまが求める最良の製品を開発してきました。自動結束システムをはじめ、重量物搬送システム、バルブ開閉器など、独創的な機械技術から生まれた製品は世界の市場で高く評価され、厚い信頼を得てきました。更に、硬質材料、表面改質、ハードディスク基板の分野でも、高度な素材技術・表面処理技術のもとに高い付加価値を持つ製品を提供してきました。今後は、厚い信頼を機軸に、更にグローバルな市場のニーズを追求します。



工場風景



ハードディスク基板



硬質材料KH



自動結束システム

東洋鋼鋅グループ

● 国内グループ
● 海外グループ

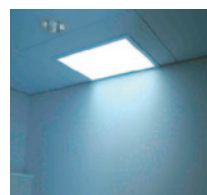


● KYテクノロジー株式会社

KYテクノロジーは、環境にやさしいものづくりをしている会社です。東洋鋼鋅製の高反射率銀めっき金属板ミラーコートKを利用したエコ製品として、反射笠「SetsuDenミラー」、光ダクト「どこでも光窓」などがあります。また、ソフトで美しい外観のエクステリア商品として、東洋鋼鋅製化粧鋼板ビノトップを使用した自転車置き場（サイクルハウス・ラック）や収納庫（ホームセンターナフコ様オリジナル製品として提供）があります。



SetsuDenミラー



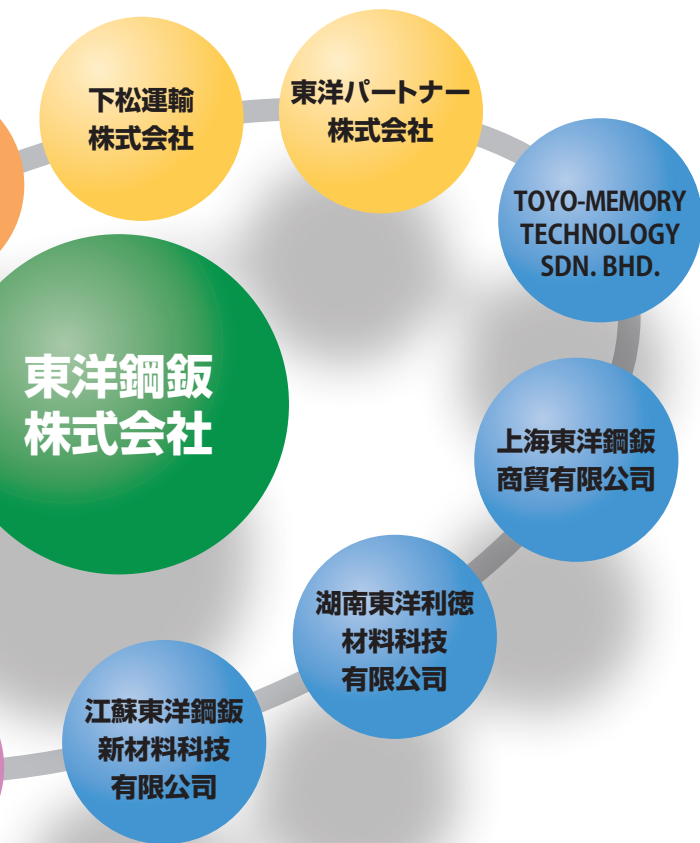
どこでも光窓



サイクルハウス



収納庫



● 東洋パックス株式会社

東洋パックスは、2011年4月1日に東洋鋼鋅の最終工程である裁断検定、包装部門に旧KYテクノロジーの包装資材製造部門を統合し、新しい東洋パックスとしてスタートをきることになりました。新たに加わった包装資材製造と従来の包装作業の一元管理による統合効果を発揮します。



パイラー検定

外径リング成形

コイル包装

● 共同海運株式会社

共同海運は東洋鋼鋅グループの海上輸送担当で、東洋鋼鋅を最大荷主とし、鋼材の海上輸送を行っています。東洋鋼鋅の製品は、関西以東のほとんどを船輸送しています。帰りは復荷を積み一度の航海で大量輸送を実施することで安定供給とともにCO₂の発生量削減に努め、環境負荷低減に貢献しています。



第二十一東鋼丸

● 下松運輸株式会社

下松運輸は、東洋鋼鋅の物流部門を担当している会社で、東洋鋼鋅下松事業所構内作業、製品在庫管理、トラック輸送、港湾業務を行っております。1996年には下松市郊外にも自社営業倉庫を完成させ、倉庫業務、保税業務、輸出入海上コンテナ業務へと進出を果たしました。これからもお客様のニーズに合わせた多種多様な物流サービスを提供する総合物流企業として、更なる飛躍を目指していきます。



60t Uフレームトラック 長距離トラック・トレーラー

営業倉庫

● 東洋パートナー株式会社

東洋パートナーは、東洋鋼鋅グループの福利厚生業務を主に請け負っている会社です。社宅や独身寮、体育館や野球場等の管理、また、保険や社内融資の取次ぎ、社内スポーツ大会の運営、最近では事業所内の製造業務も一部請け負っています。グループ従業員の安心・安全、文化・体育活動や余暇活動をサポートする、社名の通り東洋鋼鋅のパートナーとして頑張っている会社です。

身近なところに東洋鋼鋳グループ

街の中にあふれる東洋鋼鋳グループの製品を紹介します。

高天井用高効率反射笠

■ 銀めっき金属板



極めて高い反射率を持つ東洋鋼鋳の銀めっき金属板を使用した反射笠は、小さな光源で最高の照度が得られます。そのため省エネ効果もあると大変好評を得ています。

駅ホーム屋根

■ 植毛鋼板



厳しい日差しや強い雨から、駅のホームを守ってくれる屋根。通勤、通学や旅先で、思い出したら見上げてください。きっとそこも東洋鋼鋳の仕事です。

DVDプレーヤーのトレイ

■ 電気亜鉛めっき鋼板



好きなDVDをプレーヤーに入れて再生するときのワクワク感はたまりません。そんなときも東洋鋼鋳はあなたのそばにいます。

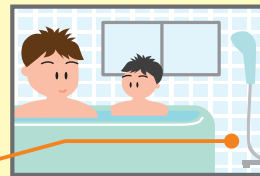


ユニットバス内装材

■ 樹脂化粧鋼板



お風呂にゆったり入るバスタイムは、大人も子供も大好きな時間。東洋鋼鋳は、その空間をスタイリッシュ&快適に演出します。



冷蔵庫の扉

■ 樹脂化粧鋼板



ジュースにビール、フルーツやアイスクリーム…。家族の大好物が詰まった冷蔵庫を開けるときは思い出してください。これも東洋鋼鋳です。

食品容器

■ ぶりき・ラミネート鋼板



ツナ缶などの缶詰から高級海苔やお菓子が入った化粧缶まで、おいしい食べ物をおいしく届けるのも東洋鋼鋳の得意分野です。

パソコンのハードディスク

■ 磁気ディスク用基板



いまや必需品となったパソコン。東洋鋼鋳グループが培ってきためっき、超精密加工技術、それらが融合して記録密度の飛躍的向上を支えています。

プラスチック製品

■ 成形機用KHスクリュ、シリンダ



スマートフォン、携帯電話、パソコンを薄肉化するためには硬いKH部品が必需品です。情報化社会に役立っています。

飲料容器

■ ラミネート鋼板

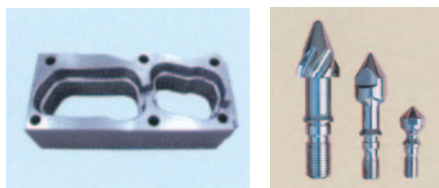


喉が渴いたときやホッとひと息つきたいとき、みんなが手にする缶ジュース。そのおいしさを包んでいるのは東洋鋼鋳です。

SHOPPING CENTER

自動車部品

■ プラズマハードコーティング



鋼鋳工業のプラズマハードコーティングは、摩耗や熱、腐食などに対して強いいため、車のプレス金型などの長寿命化と品質向上に貢献しています。

燃料パイプ

■ ニッケルめっき鋼板

燃料パイプなどの自動車部品にも東洋鋼鋳の技術が活躍しています。劣化ガソリン・熱・排ガスなどに対して強いいため、長寿命化も実現しています。



電池材・ハイブリッドカー用バッテリー部品

■ ニッケルめっき鋼板

おもちゃ・家電品からハイブリッドカーまで、いろいろなところで大活躍の電池。その素材となる電池材も東洋鋼鋳の仕事です。

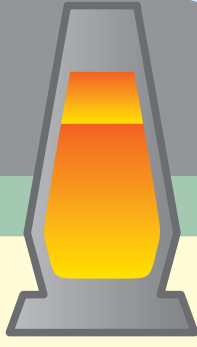


こんなところに東洋鋼鉄グループ

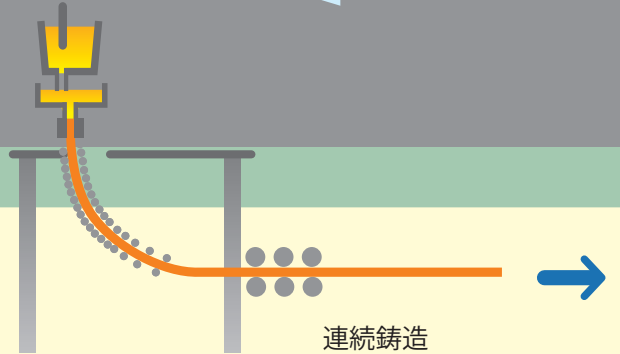
～ 環境にやさしい工場を支える鋼鉄工業の製品～

製鉄所

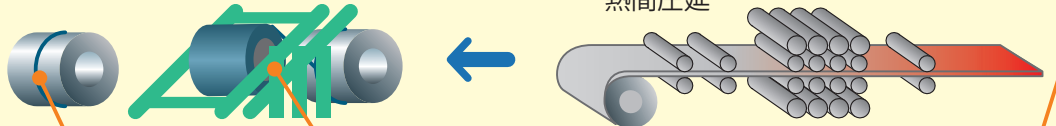
鉄鉱石
コークス
石灰石



高炉

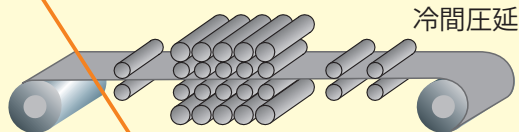
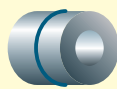


連続 casting



熱間圧延

ホットコイル



冷間圧延



エアベアリングによるロール軸受の着脱

BESTORQUE

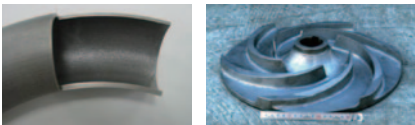


製鉄所や石油コンビナート等での製造装置では多くのバルブが使用されています。

装置や作業者の安全を図る目的でこれらのバルブを自動化し火災発生時の緊急遮断や高所

でのバルブ開閉の遠隔操作を行うために既設のバルブを改造することなく自動化が可能な「ベストルク」が鉄鋼、石油、化学、製紙、電力等あらゆる業界で活躍しています。

KH硬化処理



製造プラント内の配管や駆動機器に発生する摩耗対策へ使用されています。拡散接合技術を使っているため、剥離が起きません。

スチール結束バンド



重量のある鉄鋼製品を安全に輸送するための梱包材料として、鋼鉄工業の高品質なスチールバンドが使用されています。

結束機



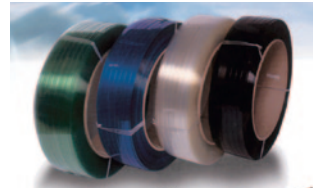
コイル、線材、パイプ等、重量物製品のバンド結束を効率よく安全に行い生産現場の省力化、合理化、安全性向上を実現しています。世界の鉄鋼業界に納入実績を持ち高い評価を受けています。

エアベアリング

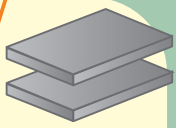


数百キロ～数千トンの重量物を空気のみで浮かし、1/1000の力で自由自在に動かすことができます。
例えば、発電所での定期修理で大型機器の入替えに使用され電力の安定供給に貢献しています。

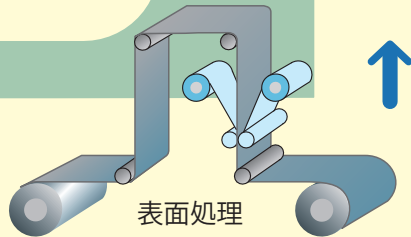
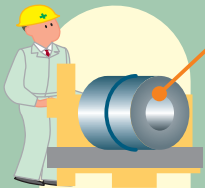
ポリエステルバンド



鋼板製造工場

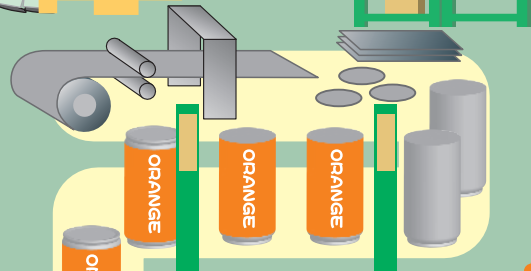


鋼片加熱

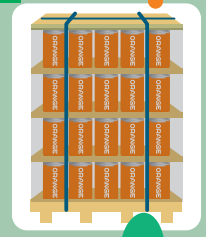


表面処理

製品加工工場



製缶ライン



こんなところが環境にやさしい

■ポリエステルバンド「エステルトップ」

ポリエステルバンドは、高い引張強度を持つとともに、長時間張力を維持することが可能な、ポリエステル樹脂を原料とした梱包用バンドです。高い強度と信頼性を実現し、鉄鋼製品や繊維、木材といった重量物の梱包から、缶、ペットボトルの出荷梱包といった比較的軽量の梱包物まで、高い梱包品質を求められるさまざまな分野で使用されています。また、長時間、長距離の輸送に適するため、輸出梱包でも活躍するバンドです。鋼板工業の「エステルトップ」は、ペットボトル工場から出る発生品のポリエステル樹脂を原材料の一部として再利用することにより、循環型社会の形成に貢献しています。



■安全、クリーンなエアベアリングシステム

エアベアリングシステムは、空気のみを利用し、床面とエアベアリングの間に10ミクロン程度の空気膜を形成することにより1トンのものを1kgの力で動かすことが可能で、女性でも楽に重量物を扱えます。空気で搬送するというと、皆さんはホバークラフトを想像され「音が大きくホコリが巻き上がる」というイメージがすぐ思い浮かぶのではないのでしょうか。しかし、エアベアリングは床面との少ない隙間から空気が流れる為、音も無くホコリも巻き上がることはありません。また、空気を利用していることから環境的にもクリーンで、写真にあるように醤油を搾り出す機械の移動にも多く採用されている環境にやさしい商品です。



お客さまとともに

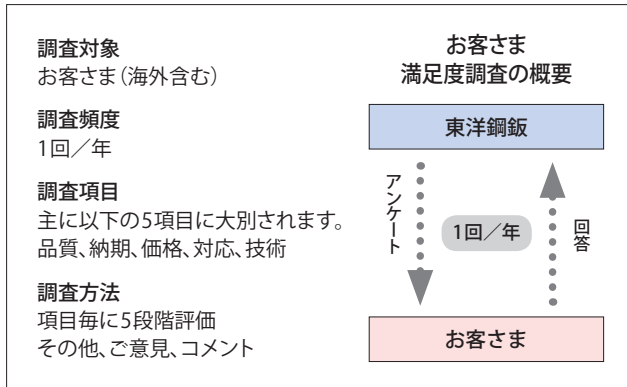
東洋鋼鋳グループは、優れた品質の製品をお客さまに提供することにより、広く社会に貢献したいと考えています。製品の品質を向上させるだけでなく、お客さまの満足度調査と改善活動、環境に配慮した製品の開発、展示会への出展などを通じて、さまざまな角度からお客さまとともに社会への貢献を目指します。

お客さま満足度向上への取り組み

お客さま満足度調査と改善活動 (PDCA)

お客さま満足度調査の計画、実施 **Plan Do**

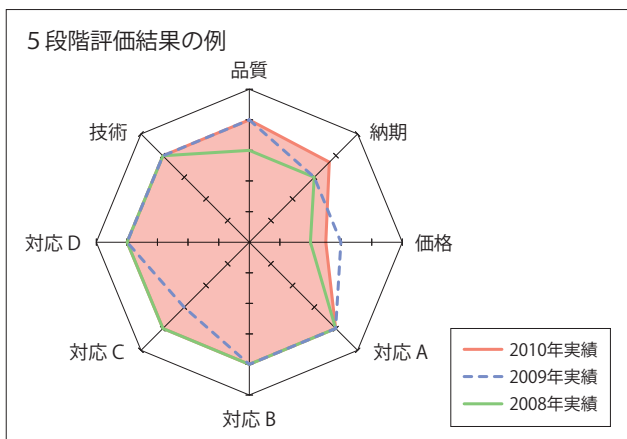
当社は、お客さまとの日頃のお付き合いから得られる情報だけでなく、お客さまのご協力のもと、お客さま満足度アンケートを計画・実施しています。



お客さま満足度調査結果 **Check**

お客さまからいただいたアンケート結果は、お客さま別、用途別および時系列で集計され、品質会議でトップマネジメントに報告されると同時に、関係部門で共有化され、その後の品質改善活動の中に反映されます。一方“ご意見、コメント”では数値指標では表せない生の具体的な声をお聞きすることで、さらにお客さまに安心と信頼を提供できるよう努めています。

◆ 項目毎の比較および推移 (A社)



ご意見、コメントの例

- ・場所的には不便なところですが、定期的な技術・営業サービスに来ていただくようお願いします (B社)。
- ・不具合に対する改善提案、対応ありがとうございます。生産数量の増減が厳しい状況ですが、引き続き品質の維持ご協力をお願い致します (C社)。
- ・営業担当者はアクションが早いので助かっている。他社も含めて技術サービスの方が来られることが無い。弊社には品質過剰な面もある (D社)。

調査結果をもとにした取り組み **Act**

アンケート回答結果を集計・分析し、特にその中でも低評価項目およびコメントに対し、重点的に対策を立案・推進します。業務改善で対応できる内容に関しては、対象部門が責任を持って迅速に対応しています。また、業務改善だけでは対応困難な内容に関しては、全社的な方針を打ち出し、具体的な活動に落とし込んでいます。

なお、アンケート自体も、その効果を見極めながら、有効なものになるよう継続的に工夫・改善を図っています。

その他の活動

2011年度より、お客さまの情報を今まで以上に社内の隅々まで伝達し、お客さま満足度を向上させる活動として、『マイプロダクト活動』を開始しました。

営業・下松間協議 (MK会)	最新のお客さま・営業情報をもとに、営業・下松(生産拠点)間のコミュニケーションを深める
品質・現業部門間協議 (QP会)	最新のお客さま・営業情報をもとに、工場内のコミュニケーションを深める
品質情報の提供 (製品展示)	最新情報・クレーム情報などを提示し、コミュニケーション活性化および情報共有化を図る
品質情報の提供 (会報発行)	社内外情報に対する意識付け
現業部門のお客さま訪問	お客さま意識の向上

環境に配慮した製品開発

PETラミネート製品「ハイペット」

従来の飲料缶は、腐食・錆を防止するために製缶メーカーで缶の内側・外側に塗料の塗装・焼付が必要でした。しかしその工程で大量に使用される塗料・溶剤・水。そして塗料特有の臭い。たくさんの方が気軽に喉を潤している飲料缶が、環境に多くの負荷をかけている。飲料缶の素材を作るメーカーとして、その事実は見過ごせない問題でした。環境にやさしい安心な素材をつくるというプロジェクトはこうして動き出しました。

塗料の塗装・焼付に代わる工程として選ばれたのが、熱だけの使用で廃棄物も殆ど出ない、PETフィルム of の貼り付け(ラミネート)です。塗装・洗浄工程を省略し、排出物と排水を大幅に削減するだけでなく、優れた内容物保護性能とフレキシビリティを併せ持つ、理想の缶用材料が誕生したのです。

この「ハイペット」が採用されている代表的な製品を紹介します。

TULC用

TULC (Toyo ULtimate Can) は、東洋製罐株式会社と当社で一体となって開発された、製缶工程での環境負荷を低減させるだけでなく、中味本来の味、風味を保持する性能を併せ持った環境配慮型製品です。「ハイペット」は、このTULCに適合し、製缶材料として大きく発展しました。

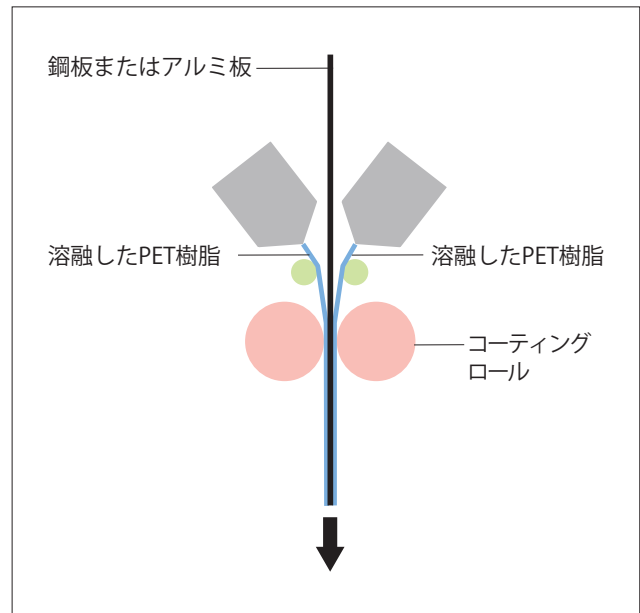


aTULC用

aTULC (aluminum Toyo ULtimate Can) は、TULCに引き続き飲料用途として開発された、アルミ基材のPETラミネート製品です。当社は新たにDEC (Dual co-Extrusion Coating) システムを実用化し、直接基材に両面同時に塗工(コーティング)することで、この材料を供給しています。熱移動が少なく効率的な方法で、省エネに貢献しています。



◆ DEC概念図



TEC200用

TEC (Toyo seikan Environmental, evolutionary Can & effectual filling system) 200は、TULCに「開けやすく・飲みやすく・香り漂う」というコンセプトを付加したリシール缶です。当社は、この缶の成形を安定して行えるよう、ラミネートするPETフィルムの加工性を、大幅に改良して対応しています。



PETラミネートDR缶用

PETラミネートDR缶は、一般食缶にも「ハイペット」を適用した商品です。ツナ、さば、ほたてなどの海洋資源や牛肉、豚肉といった畜産品も含め、貴重な食料を安全・安心に保護します。従来のスチール製DR缶の内面塗装をPETフィルムラミネートに切り替え、内容物を保護する性能の向上、環境負荷低減を達成しています。



展示会出展

エコプロダクツ2010への出展

2010年12月9～11日に日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ2010」が東京ビッグサイトで開催されました。当社も東洋製罐グループの一員として出展しました。今回のエコプロダクツでは「環境にやさしい東洋製罐グループの認知度向上」を目標として、昨年までの出展を深化させた内容としました。一般消費者に向けて「容器って何だろう?」と問いかけ、日常生活に身近で重要な役割を担う容器と、それを作る東洋製罐グループの容器メーカーとしての存在を知っていただくとともに、環境への取り組みをご理解いただくことを目指しました。東洋製罐グループのブースでは、昨年好評を得た「エコツアー」を今年も実施しました。来場者に容器の役割とエコへの取り組みをわかりやすく解説した「エコパスポート」を配布し、ナレーターがグループ各社のエコへの取り組みをクイズ形式で紹介しながら、約15分ほどブース内を見学していただき、最後のアンケートに協力してくださった来場者にはラミネート鋼板製の缶ペンケースをプレゼントしました。当社は容器自体は扱いませんので、缶用材料の技術を生かした「エコな技術」としてミラーコートKによる光ダクトのミニチュアを展示しました。光ダクトへの来場者の関心は高く、説明にあたったスタッフにもいろいろな質問をいただきました。中には、こんなところに使えないかななどご意見を寄せてくださる熱心な方もいらっしゃいました。3日間の総入場者数は18万3,000人で、東洋製罐グループのブースにも1万500人の来場者があり、前回以上の盛況となりました。



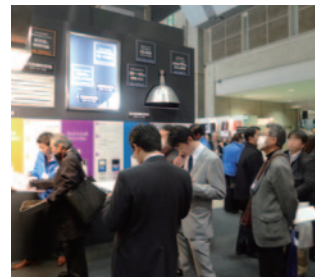
「光ダクト」出展風景



東洋製罐グループブース外観

建築・建材展2011への出展

2011年3月8日～11日、東京ビッグサイトにて「建築・建材展2011」が開催され、当社の各種建材製品を出展しました。「ミラーコートK」を用いた光ダクトや反射笠、少ない照明でパネルを均等に照らすことができる光壁を設置しました。「ファイバーコート」は屋根材として結露の滴下防止効果の実演を行いました。また、アンケートに回答いただいた方にはラミネート鋼板製の缶ペンケースと会社／製品紹介パンフレットを配付し、4日間で2,000名以上の方にアンケートにご協力いただきました。



ブース内の様子



製品展示の様子

※最終日(3月11日)は東北地方太平洋沖地震の発生により、午後3時15分をもって中止となりました。

やまぐちいきいきエコフェアへの出展

2010年10月9日～10日に、山口きらら博記念公園において参加・体験型の環境イベントである「やまぐちいきいきエコフェア」が開催されました。当社も企業ブースを出展し、エコ製品の紹介や体験型ブースの設置を通して環境への取り組みをPRしました。このようなイベントを通して、ステークホルダーの皆さまからの声を今後の新たな取り組みに活かしていきます。



ブース出展の様子

株主・投資家の皆さまとともに

東洋鋼鈹は、株主の皆さまに対し、株主通信で最新の情報を提供するとともに、アンケートを実施するなど積極的な双方向コミュニケーションを通じて企業価値の向上を目指しています。

株主通信の発行

当社では、株主の皆さまに当社のことをより理解し、株式を長期保有していただくことを目的として、株主通信を発行しています。皆さまの生活のあらゆるところに当社の製品が使われているということ、「こんなところにも!」と発見できるようなデザイン・内容になっています。この他にも社長インタビュー、新製品や海外事業所の紹介など、最新の情報を発信しています。

◆ 第114期中間株主通信



表紙



ひと目でわかる東洋鋼鈹



特集1



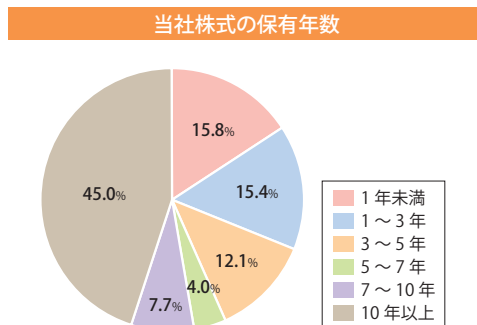
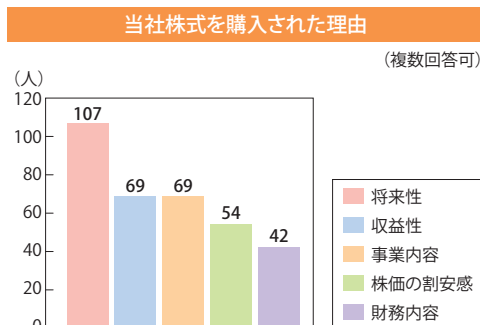
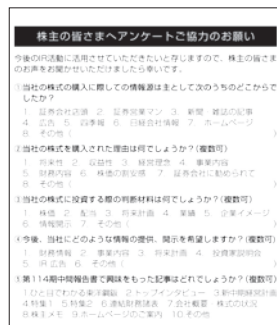
特集2

株主アンケートの実施

第114期中間株主通信では、初の試みとしてアンケート葉書を同封し、280名の方からご回答をいただきました。今後も株主や投資家の皆さまのご意見に耳を傾け、当社の企業価値の向上に取り組んでいきます。

◆ アンケートと集計結果

アンケートの一部



◆ アンケートに寄せられたご意見

- ・ 他社に負けまいと頑張ってください。株主への還元も忘れずをお願いします。
- ・ 内外とも競争激化の中で良く頑張っていると敬意を表します。今後とも一層のご活躍を期待しています。
- ・ 専門知識のない人でも分かるように配慮された株主通信だと思ふ。
- ・ 今後はCSRのことも説明があれば良いと思ふ。
- ・ 株主とのコミュニケーションツールとしてアンケートを今後も継続してほしいです。
- ・ 世界的に市場が拡大する環境エネルギー分野(太陽電池等)へ期待している。
- ・ これからも将来を見据えた技術開発を主とした事業発展を切望する。
- ・ 中国進出が活発ですが最近の状況から心配です。(石橋を叩いて渡らないイメージだったので)
- ・ 株主として50年が経過しました。微力ながら応援しています。特に技術力に期待しています。
- ・ 民間初のぶきメーカーとして誕生した会社ですが、今では太陽光発電の分野まで事業を広げこれから益々の発展を期待しています。今後100年、200年と末永く頑張ってもらいたいです。

社会活動

従業員とともに

東洋鋼鋳は、従業員一人ひとりが持てる力を存分に発揮し、いきいきと働けるよう、心と体の健康づくりや人材育成に力を入れています。また、安全防災活動にも積極的に取り組み、災害防止に努めています。

東洋鋼鋳グループ 「下松事業所開放デー」開催!

2010年11月6日に、従業員や従業員の家族、地域の皆さまへの日頃の感謝の気持ちを込めて東洋鋼鋳グループ「下松事業所開放デー」を開催しました。

約4,000名の方々に会場にお越しいただき、グループ工場見学会や製品ショールーム、こうさくコーナー、ちびっこ広場などの催し物を楽しんでいただきました。工場内はもちろん、事務所や食堂なども一般開放し、子どもたちからは普段なかなか見る機会のないお父さん・お母さんの会社を見学して「おもしろかった」「また行きたい!」との声をいただきました。

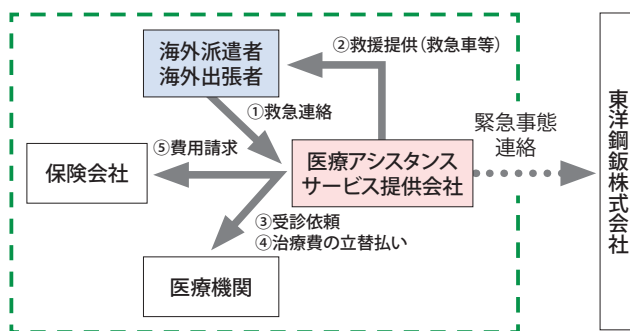


下松事業所開放デーの風景

海外赴任者・出張者への 医療サポートサービスの充実

東洋鋼鋳グループでは、社員の海外における医療リスク(交通事故、感染症等)に備え、海外医療アシスタンスサービスに加入しています。本サービスでは、海外駐在員(家族を含む)、海外出張者が赴任先または出張先において怪我や病気に関するトラブルに遭遇した際に、電話一本でアシスタンスサービスを受けることができます。(24時間365日体制)本サービスを通じ、東洋鋼鋳グループでは、海外における医療リスク管理を推進しています。

海外医療サポートの流れ



人材育成・新入社員教育

2010年入社の新入社員がゼロから企画した「社会貢献でみひろい」をしながら街に溶け込む鋼鋳製品を探そう!」を行いました。

一見きれいに見える町並みでも沢山のごみに(泣)。でも街の人の「お疲れ様」「ありがとう」との声に嬉しさもありました。鋼鋳製品が使えるなものも発見し、この企画で社会との繋がりを感ずることが出来ました。



2010年度新入社員と指導員

新入社員が考えた街で使える鋼鋳製品

- ・ 地下道を照らすミラーコートK!
- ・ 雨で汚れが落ちるフィルムを使った看板
- ・ 抗菌・消臭機能の板を使ったゴミ箱
- ・ 反射するガードレール……など

安全衛生・防災への取り組み

主な安全衛生活動への取り組み

社内安全衛生大会開催

2010年7月2日に開催された第20回社内安全衛生大会において下松市消防本部原田予防課長を講師にお迎えし「工場の防災管理」についてご講演いただき、防災意識の向上を図りました。(聴講者185名)



社内安全衛生大会開催

総合防災訓練

2011年2月24日、調質圧延機にてガス溶断作業中に溶断火花が潤滑油に引火して火災が発生するという想定で防災訓練を実施しました。通報や初期消火活動、火災場所と指揮本部等とのトランシーバーによる情報共有、空気呼吸器を使用する消火活動や負傷者救助活動が行われました。今後、繰り返しの訓練が必要であるとの反省により、2011年度から6ヶ月に1回の頻度で総合防災訓練を実施します。



総合防災訓練

協力会職長新任教育

2010年8月10～11日、協力会会員事業所の新任職長23名を対象に労働安全衛生法に定める職長の安全衛生教育を実施しました。



受講風景

ヒヤリ・ハット活動

職場で働く作業者が自らの手で触り、目で見て、体験した危険を発見して報告することにより、管理者はこうした危険を排除するため、応急措置を講じて、その後速やかに抜本的な対策を講ずることにより、災害を未然に防ぐ活動です。2010年度は、東洋鋼鋳および協力会社合わせて、合計839件の報告がありました。

リスクアセスメント活動

2005年からリスクアセスメント活動による設備の本質安全化に取り組んでいます。2010年度は、約3,400万円を投資し、各職場で洗い出した危険要因について設備改善を行いました。

作業環境測定

労働安全衛生法に定める有害物質について、定期的に作業場における濃度測定を行い、職場の衛生環境の維持と向上に努めています。

2010年度災害発生状況

労働災害は、下松事業所で不慮災害が3件、協力会社で休業災害が2件発生しました。これらの災害は、「作業手順に定められていない不安全作業」、「油断・不注意」が主な原因でした。対策として、設備改善、災害説明会による原因追求の徹底と災害事例の水平展開を図りました。

防災事故は、下松事業所で火災(ぼや)が2件発生しました。関係職場の迅速な対応、消防署への通報により、被害を最小限に抑えることができました。

火災は、人命に係る重大な事故であり、企業責任として起こしてはならない事故であり、二度と起こさないよう従業員の防災教育、防災訓練の充実および設備の改善を図っています。



火災発生状況説明風景

健康ウォーキング

従業員の健康づくりを目的に、東洋鋼鋳健康保険組合と当社の共催でウォーキング大会を開催しました。

下松事業所では、バスを利用し、73名参加のもと、宇部市常盤公園を歩きました。本社や大阪支店でも名所を巡り従業員同士コミュニケーションを取りながら気持ちのよい汗を流し、ウォーキングを楽しみました。



本社:2010年 7月 3日(土) 27名参加
10月16日(土) 45名参加



大阪支店:2010年11月27日(土) 14名参加



下松事業所:2010年 6月 5日(土) 73名参加
秋ミニウォーキング: 10月 8日(金) 28名参加
10月18日(月) 28名参加

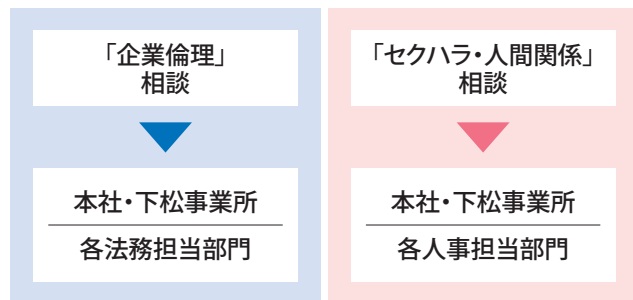
相談窓口

企業行動規準をはじめ、コンプライアンスに関して疑問や質問があったとき、または法的、倫理的に不適切な問題の発生に気づいたときに相談、連絡するために社内の相談窓口と社外の相談窓口を設け、組織の自浄作用による解決を目指しています。

この制度の利用者が不利益を受けないことや、個人情報等の保護については、社内規程に明記しており、社員が安心して利用できるようになっています。

社内相談窓口

東洋鋼鋳グループにおいては、各社それぞれで社内相談窓口を設置しています。当社は次の部門が対応しています。



社外相談窓口

社内の人には相談しづらい、あるいは社内窓口で相談したなかなか対応してもらえないといった場合に備え、東洋製罐グループ各社が共同して社外相談窓口を設置しています。具体的には「企業倫理ホットライン」と「セクハラ・人間関係ホットライン」を設置し、2008年4月からは匿名での受付や職場の人間関係の悩みの相談も開始し、相談機能の拡大を図っています。



地域社会の皆さまとともに

東洋鋼鈹は、生産拠点の下松事業所がある山口県下松市を中心に、地域の皆さまとのコミュニケーション活動や、地域貢献の一環としてさまざまな活動に参加しています。

清掃活動

清流錦川一斉清掃大作戦

2010年5月8日に、山口県周南市にある菅野ダム周辺の清掃活動に参加しました。菅野ダムは山口県を流れる錦川の上流に建設されており、当社の工業用水の水源にもなっています。



錦川一斉清掃への参加風景

水を守る森林づくり推進事業、まちと森と水の交流会

2010年10月30日に、山口県周南市須々万にて「水を守る森林づくり推進事業、まちと森と水の交流会」が開催され、当社も参加しました。この活動は、水源となる森林の機能を理解し、森林の整備や適切な管理に対し企業の自主的な活動を促進することを目的としております。

当社でも、生産活動をする上で水は欠かせないものになっており、当日の草刈りや伐採などを通して森林への理解を深めることができました。

次世代育成支援

当社は2009年から、山口県下松市の小中学生に「ふれあい感動体験」を通して夢を育んでもらうことを目的とした次世代育成支援を行っています。

2011年2月1日に小学校高学年を対象とした東京演劇アンサンブルによる「おじいちゃん」の口笛が上演されました。老人と少年2人の心温まる物語に、児童からは「とても感動的な劇だった」などの感想が寄せられました。



東京演劇アンサンブル「おじいちゃん」の口笛の一場面

工場見学

下松事業所では、小中学生をはじめ、地域の方々の工場見学を積極的に受け入れています。2010年度は約370名の方々が下松事業所へ来場されました。工場見学や製品紹介、当社従業員との触れ合いを通じて、当社をより身近に感じていただけるよう取り組んでいます。



工場見学風景

ボランティア活動

下松事業所の製造現場の第一線監督者で構成している職長会では、福祉施設「松星苑」の支援活動を継続的に行っています。2010年10月10日に開催された第33回「松星苑ふれあい祭」に、職長会として駐車場整備や屋台などの手伝いを行いました。



松星苑ふれあい祭

VOICE



職長会
廣實 孝行 会長

“安全と笑顔”をモットーに「ふわふわドーム」の手伝いをしました。行列が途切れない程の忙しさの中で、子ども達の楽しそうな姿を見て元気をもらうことができました。また、想像以上にボランティアの人が多く、この「松星苑ふれあい祭」はいろいろな人に支えられた温かい祭りという印象を受けました。

お取引先さまとともに

東洋鋼鈹は、「グリーン調達ガイドライン」を制定して、品質・価格・納期だけでなく、環境面にも留意した資材調達活動を行っています。

またサプライチェーンマネジメントにおいても、経済効率の追求にとどまらず、「環境負荷低減」の視点を取り入れ、グループ各社との連携を強め、販売・生産・在庫・輸送の適正化を図っています。

環境に配慮した調達活動

当社は、人と地球に優しい製品をお届けするために、環境保全に努力し、環境と調和した事業活動を進めています。資材調達においても、従来からの品質・価格・納期という調達基準に加えて、「資源保護」、「環境保全」など環境面に留意した調達活動を行っています。

昨今、EUのRoHS※1指令・REACH※2規制をはじめ各地域で製品への有害物質含有を規制する動きが本格化しており、購入する原材料、資材における有害物質の徹底排除と環境負荷低減に向けた、適切な資材調達が強く求められています。

当社では、こうした状況を鑑み、「グリーン調達ガイドライン」を制定しています。このガイドラインを、お取引先さまとの公正・公平な資材調達条件の1つとして、ホームページ上に掲載するとともに、環境に配慮した製品を継続的に提供すべく「グリーン調達」の拡大に努めていきます。

<http://www.toyokohan.co.jp/ja/profile/supply.html>



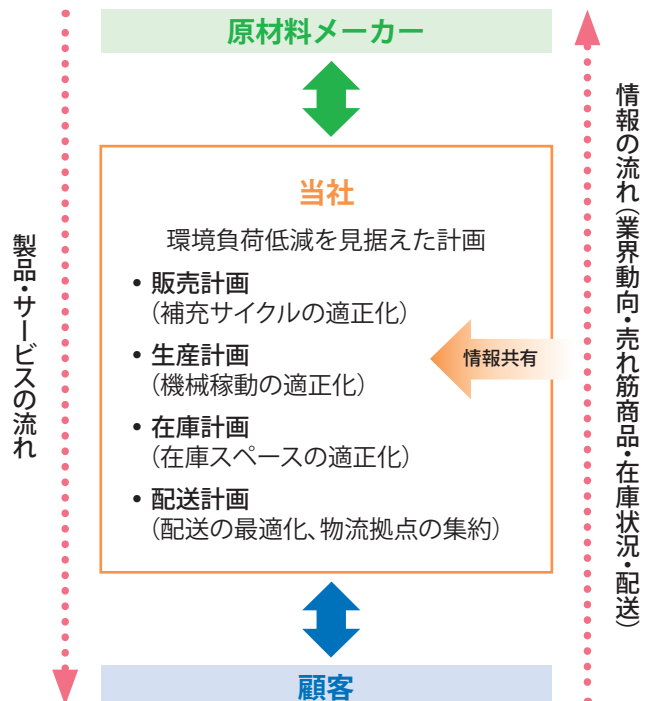
東洋鋼鈹調達ガイドライン

サプライチェーンマネジメント

当社は、市場変動への迅速な対応と効率的な生産を目指して、サプライチェーンマネジメント活動を積極的に推進しています。「原材料の調達」→「生産・販売」→「顧客使用」という一連の過程においても環境への配慮が重要であるとの認識に立って、在庫削減・工程短縮など、環境負荷低減に取り組んでいます。

また、物流面の改善を図ることで、省エネルギーの推進にも取り組んでいます。グループ各社と連携を強化しながら、適正な輸送手段の選定、輸送効率の向上、物流拠点の適正化を図っていきます。

◆ サプライチェーンマネジメント



※1 RoHS (Restriction of the Use of Certain Hazardous Substances in Electrical and Electronic Equipment) 指令
概要：電気・電子機器に含まれる特定有害物質(鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、ポリブロモビフェニル、ポリブロモジフェニルエーテル)の含有規制。
調査対象：EU領域内で販売する、電気・電子機器製品と製品を構成する全ての部品。

※2 REACH (Registration, Evaluation, Authorisation and Restriction of Chemicals) 規制
概要：EUにおける化学品の登録・評価・認可および制限に関する規則。
サプライチェーンを通じ、消費者などに高懸念物質(SVHC)の安全性や含有情報を提供する義務あり。
将来的には、約1,500物質がSVHCとして特定される可能性あり。
調査対象：EU領域内で製造または輸入する化学物質。

環境リスク低減への取り組み

東洋鋼鋅グループは、環境関連法に基づき、大気汚染、水質汚濁、化学物質および廃棄物等の適正管理を実施し、環境負荷低減活動を展開するとともに、環境汚染の発生を未然に防止しています。また、万が一の汚染発生時には、その拡大を防止すべく、緊急事態への対応訓練を実施しています。

環境リスクマネジメント

緊急時の対応訓練

東洋鋼鋅グループは、多量のエネルギー、薬品等を使用する工場で事故が発生した場合、地域社会にも大きな影響をもたらすことを認識し、事故発生の防止のために厳しい自主基準による管理を実施し、環境リスクの低減を図っています。また、突発的な事故など緊急事態が発生した場合に備え、対応手順書を定めて、定期的な訓練を実施しています。下松事業所では、「有害物質を含んだ廃液がタンクより漏洩した」との想定で訓練を実施しました。確実な処置および社内での伝達、関係先への通報等問題なく行われました。



下松事業所の環境訓練の風景

PCB管理

東洋鋼鋅グループ各社では、PCB含有機器およびPCB油等をPCB特別措置法に従い適正に保管・管理しています。PCB廃棄物については、専用の保管場所で保管容器に入れ、処理できるようになるまで、適切に保管管理していきます。



PCB廃棄物の管理

環境測定

東洋鋼鋅グループでは、法律、条例、協定、自主基準に基づき、各施設からの排水や排ガスの状況については、定期的な分析や自動分析装置による連続測定により常に監視しています。

アスベスト対策

下松事業所の石綿（アスベスト）は、吹き付け材については、事前の届出および作業場の隔離等の措置を行った後、撤去工事を実施しています。2010年度は1件の工事を行い、吹き付け材は事業所内すべての撤去が完了しました。既存設備に使用された非飛散性の石綿含有製品についても、補修等に併せて非石綿製品へ交換を行っています。

環境関連法規制への対応

環境関連法規制順守状況

地下水の定期自主測定により、敷地境界線上の地下水は問題ありませんでしたが、ライン直近の1カ所で地下水の環境基準を超過するという異常が発生しました。この異常に対しては、関係官庁に報告を行い、地下水のモニタリングおよび揚水浄化処理を継続して実施しています。また、併せてタンクの更新や漏えい検査、防液堤の補修等、再発防止対策を講じています。

化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）

東洋鋼鋅グループは、PRTR法に基づき、毎年、環境への排出量および移動量を国へ届出するとともに、代替物質への変更および削減に取り組んでいます。その結果、2010年度は2009年度より生産数量が増加したにもかかわらず、ほぼ横ばいで推移しました。

環境負荷低減への取り組み

東洋鋼鈹グループは、環境との共生を図るために積極的に環境負荷低減活動を展開しています。

ここでは、業務改革推進部が主体となって実施しました

省エネルギーおよび廃棄物削減の取り組みについてご紹介します。

また、さまざまな活動の結果としての物質フローもご報告します。

省エネルギーの推進

業務改革推進部 省エネグループでは、2008年より、当社下松事業所全体のエネルギー資源(電気・蒸気・ガス・油)の使用量削減や、大気、排水に放出されるエネルギーの回収利用を関係職場と協力して推進しています。

2010年度の主な省エネルギー活動推進項目として、

送水ポンプ、送風ファンの運用見直し

- ・ 不要なものは主電源の遮断
- ・ プーリーダウンやインバータにより回転数低減

排熱回収

- ・ 熱交換器を増強し熱回収率を向上

放熱ロス削減

- ・ 不要な蒸気バルブや配管を撤去し放熱量削減(総配管表面積:282m²)
- ・ 裸の蒸気バルブ、配管に保温対策(保温カバーの設置等)を実施し放熱量削減(総保温対策表面積:115m²)

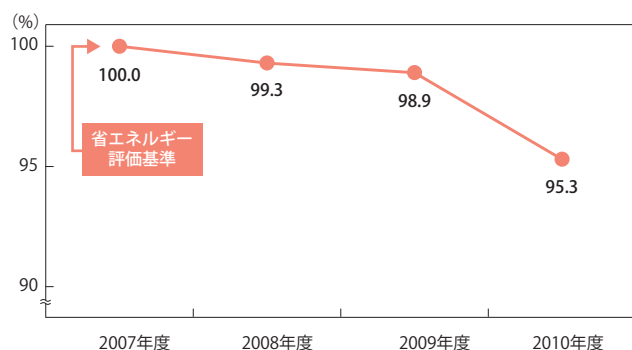
本事務所空調電力削減

- ・ 南面の窓に遮熱フィルムを貼り付け、暑熱時期の空調電力削減

などがあります。

「放熱ロス削減」(=蒸気使用量の削減)は省エネルギー活動の最重点項目として取り組みを行いました。

◆ 蒸気原単位



ボイラーから各ラインへの送気経路を再調査し、不要な蒸気バルブや配管を撤去や保温を順次実施し、放熱ロス削減

を図りました。

これらの活動の推進と各職場で実施している取り組みにより、2010年度の蒸気原単位は評価の基準とする2007年度の値に比べ約4.5%の向上を実現しました。

省エネルギー項目として、これまで213項目を検討し、111項目(2010年度は34項目)を完了しました。引き続き84項目を推進中です。

更に新しい切り口で、これまで以上の省エネルギーに努めていきます。

廃棄物削減への取り組み

業務改革推進部 省資源グループでは、昨年度に引き続き廃棄物量の削減を推進しています。

2009年6月より検討を行ってきました汚泥発生量削減対策は、2009年12月より完全実施していますが、2010年度は30.5%の削減(生産量に対する標準発生量6,804トンに対し2,072トンの削減)を実現しました。

新たな取り組みとしては、2010年7月より、MD(ハードディスク用基板)製造工程で発生する無電解ニッケルめっき廃液の再資源化を推進しています。

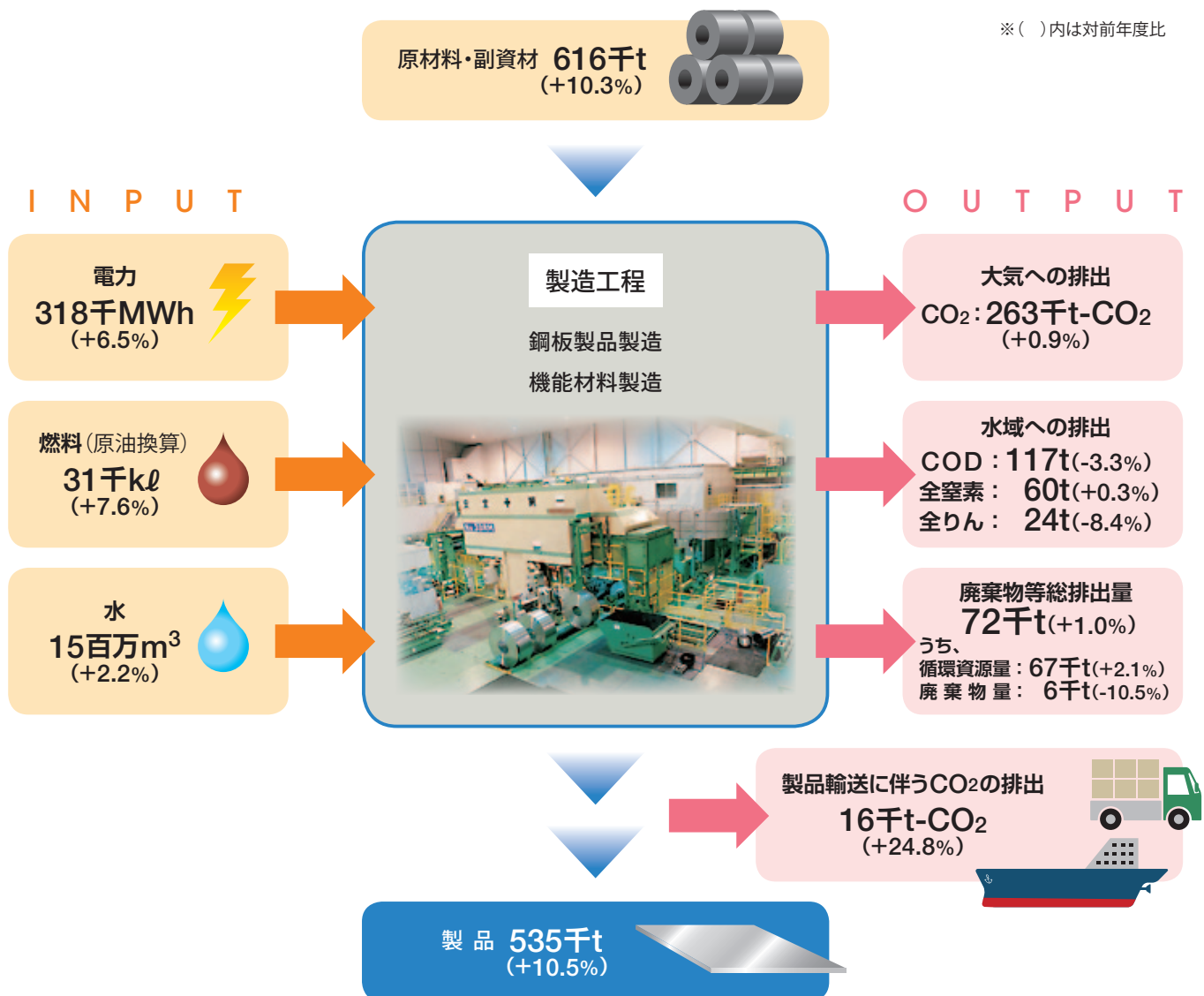
高品質なMDを製造するためにはめっき液の更新を頻繁に行う必要があり、それに伴って廃液が発生します。めっき液の使用量削減と長寿命化対策により廃液量の削減を行っていますが、それでも多量の廃液が発生します。2010年度は、約7,200トンの廃液が発生しました。

この廃液中には、およそ45トンのニッケルと230トンのリンが含まれており、2011年内の完了を目指して回収設備の設計・設置を推進しています。

物質フロー

東洋鋼板グループでは、ぶりきやラミネート鋼板をはじめとした各種表面処理鋼板、薄鋼板などの鋼板製品およびその加工品、電子機器部品、機能性フィルムならびに梱包用資材、機械器具、硬質合金などの製造を行っています。また、グループ内に物流会社を持ち、船および車両による製品輸送も行っています。

2010年度の環境面から見たグループの物質フローは下図のとおりです。主要な原材料は熱延コイルで、製品の製造工程におけるエネルギー源として電気、重油、都市ガスを使用、さらに表面処理時の洗浄や設備の冷却などに水を使用しています。その過程で、CO₂、COD、埋立廃棄物等が環境負荷物質として排出されています。



環境活動

環境マネジメントシステムの状況／目標

東洋鋼鈹グループは、環境マネジメントシステムを導入し、以下のように目的、目標を設定し、達成に向けて活動しています。2010年度の活動状況・評価と、2011年度の目標を報告します。

2010年度の活動状況・評価

No.	グループ環境目的	グループ環境目標		評価結果
		目標項目	目標値	
1	環境負荷低減	環境配慮型製品の拡販	販売予算の達成	○
2		環境配慮型製品の開発	開発目標の達成	○
3		生産活動における省エネルギーの推進	エネルギーおよび燃料使用量 売上高原単位向上：前年度比－1%	○
4		廃棄物排出量の削減	廃棄物排出量 売上高原単位向上：前年度実績未達	○
5		排出物の再資源化推進	埋立廃棄物量および単純焼却処分量 売上高原単位向上：前年度実績未達	○
6		物流における二酸化炭素排出量削減	二酸化炭素排出量 売上高原単位向上：前年度比－1%	×
7		化学物質管理	PRTR対象化学物質の排出・移動量 売上高原単位向上：前年度実績未達	○
8	環境リスク低減	環境関連法の順守	環境関連法順守の強化	○

環境負荷低減

7つ掲げた目標のうち、物流における二酸化炭素排出量削減が達成できませんでしたが、その他の目標については、グループ各社の協力により、すべて達成できました。

物流における二酸化炭素排出量は、算定可能範囲の拡大により二酸化炭素排出量が増加したため、売上高原単位による評価で削減とならず、達成できませんでした。ただし、

前年度と同じ算定範囲では売上高原単位で6%の削減でした。

環境リスク低減

外部講習の受講や社内での教育実施により、法の理解を深めました。また、監査方法の改善や、内部監査員に対する教育の実施等により、環境関連法の順守が強化されました。

2011年度の環境目標

2011年度の環境目的および目標は以下のとおりです。

No.	グループ環境目的	グループ環境目標	
		目標項目	目標値
1	環境負荷低減	環境配慮型製品の拡販	販売予算の達成
2		環境配慮型製品の開発	開発目標の達成
3		化学物質管理	PRTR対象化学物質の排出・移動量 売上高原単位向上：前年度実績未達
4		事業活動における省エネルギーの推進	エネルギーおよび燃料使用量 売上高原単位向上：前年度比－1%
5		廃棄物排出量の削減	廃棄物排出量 売上高原単位向上：前年度実績未達
6		排出物の再資源化推進	埋立廃棄物量および単純焼却処分量 売上高原単位向上：前年度実績未達
7		物流における二酸化炭素排出量削減	二酸化炭素排出量 売上高原単位向上：前年度比－1%
8	環境リスク低減	環境関連法の順守	環境関連法順守の強化

環境会計

環境会計とは、「事業活動における環境保全のためのコストと、その活動により得られた効果を可能な限り定量的に把握し、分析し、公表するための仕組み」です。2006年度実績から、グループとしての集計を実施しています。

(集計範囲:ISO14001グループ統合認証取得8社 対象期間:2010年4月1日~2011年3月31日)

環境保全コスト

2010年度の環境保全コスト総額は18.1億円で、2009年度と比較して13%増加しました。

その内、設備投資額は、2009年度1.4億円から2010年度3.4億円に増加、全設備投資額に占める割合も4.6%から8.9%へと増加しました。環境負荷の低い製品の開発費については、2009年度2.1億円から2010年度4.6億円に増加、全研究開発費に占める割合も14.1%から31.4%に増加しました。

(単位:百万円)

分類	主な取り組みの内容	設備投資額		費用額	
		2010年度	2009年度	2010年度	2009年度
事業エリア内コスト		107	124	849	880
内訳	公害防止コスト	38	41	377	326
	地球環境保全コスト	53	66	11	0
	資源循環コスト	16	17	461	554
上下流コスト	包装材の回収リサイクル	0	0	283	313
管理活動コスト	ISO14001 維持向上活動、環境負荷監視	0	0	115	80
研究開発コスト	環境負荷の低い製品開発	2010年度	2009年度		
	設備投資額+費用額	457	206	237	21
	全研究開発費	1,453	1,465	220	185
	対全研究開発費比	31.4%	14.1%		
社会活動コスト	環境美化活動	0	0	0	1
環境損傷コスト		0	0	0	0
合計		344	145	1,467	1,458
	全設備投資額	3,862	3,147	-	
	対全設備投資額比	8.9%	4.6%	-	
環境保全コスト合計 (設備投資額+費用額)		2010年度		2009年度	
		1,811		1,603	

環境保全効果

2010年度も2009年度に引き続き省エネルギーに努めましたが、2009年度と比較して板類の生産数量が約11%増加したため、エネルギー使用量は約7%増加しました。また、廃棄物等総排出量が増加した主な要因は、生産数量の増加により鉄くずが増えたためです。

廃棄物量については、生産数量の増加にもかかわらず削減できました。昨年度は、污泥発生抑制のための中和還元処理剤投入量の適正化や、還元処理剤の有効利用等の管理を継続実施することにより、廃棄物量を約9%削減、再資源化率は2009年度の91.3%から2010年度92.2%に向上しました。電力使用量が約7%増加しましたが、電力によるCO₂排出量が2009年度と同等であるのは、中国電力のCO₂排出原単位が約7%向上したことによるものです。

効果の内容		環境負荷指標			
項目	単位	総量		対前年度削減量 (削減率%)	
		2010年度	2009年度		
事業エリア内で生じる 環境保全効果	エネルギー使用量	4,302	4,027	▲ 275 (▲ 6.8)	
	内訳	電力由来	3,101	2,911	▲ 190 (▲ 6.5)
		電力以外	1,201	1,116	▲ 85 (▲ 7.6)
		水使用量	14,798	14,478	▲ 320 (▲ 2.2)
	CO ₂ 排出量	263	261	▲ 2 (▲ 0.8)	
	内訳	電力由来	199	201	2 (▲ 1.0)
		電力以外	64	60	▲ 4 (▲ 6.7)
		廃棄物等総排出量	72,447	71,742	▲ 705 (▲ 1.0)
	廃棄物量(埋立・単純焼却)	5,737	6,407	670 (▲ 10.5)	

環境活動

S U S T A I N A B I L I T Y R E P O R T 2 0 1 1



東洋鋼鋅株式会社

〒102-8447 東京都千代田区四番町2番地12
TEL.03-5211-6211(代) FAX.03-5211-0181
<http://www.toyokohan.co.jp/>

■ご意見をお寄せください。

